

岡谷の酒「神渡」と下諏訪の路地

木村 晃郁

■岡谷タウン

岡谷を訪れるのは何年ぶりだろう。かつて、現 UR の仕事で再開発事業の失敗作の事例を調査するというなんとも貴重な業務をさせていただいた。その業務中で、事例の一つとして岡谷の駅前の再開発ビルを調査に来たのだ。再開発ビルは 1984 年に岡谷駅前第一種市街地再開発事業として市施行で整備された。当時揶揄されたいわゆる駅前再開発である。市施行で整備された再開発ビルは、核テナントとの契約が甘かったり、建物全体の運営計画がずさんなものが見られ、破綻するものが多く、岡谷駅前もその一つとなっていた。私が視察したときも、既に核テナントが撤退した後で、1 階の大きな部分が空き店舗となっていた。このビルの解体が 2019 年に決まり、再々開発も否定され、跡地利用も決まっていないようだ。

その業務で滞在時間が少なかったのか覚えているのは、業務の対象である駅前の再開発ビルと駅前商店街である童画館通り、そしてイルフプラザショッピングモールである。

童画館通りはイルフプラザに併設されているイルフ童画館に由来している。イルフ童画館は、岡谷市出身の画家武井武雄氏の作品を展示する美術館であり、武井氏は「童画」という言葉を作った人であるとのこと。商店街はタイル舗装され、歩車道の段差も最小限、装飾街路灯が整備されている。沿道の建物も同系色で統一され、楕円形の統一看板も設置されている。

装飾街路灯には童画を彷彿させる切り絵が取り付けられており、その切り絵は店舗の統一看板にも設置されている。なかなかおしゃれな商店街であるが、土曜日の午後というのにほとんど歩いている人がいない。

岡谷市が製糸業で栄えた街であることを今回の路地散歩で初めて知ったのである。世界遺産を富岡に持って行かれてしまったが、一時期は世界一の生産量を誇る製糸工場があったそうである。岡谷にはそうした産業遺産の建物等が残っていて、旧丸十繭倉庫はレコードショップにリノベーションされたり、旧山一林組製糸事務所は、絹工房として絹織物研修・制作に利用されている。旧山一林組製糸事務所の 1・2 階の広いスペースには機織り機が所狭しと並べられていて、その光景は壮観である。



岡谷駅前再開発ビル



童画館通り



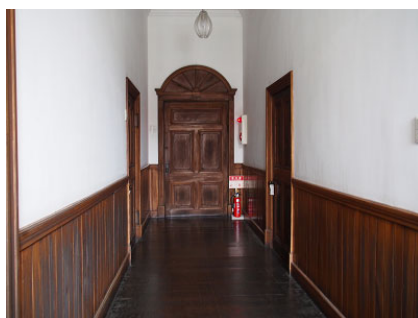
童画館通りの統一看板と装飾街路灯



旧山一林組製糸事務所



旧丸十蔵倉庫
レコードショップにリノベーション



旧山一林組製糸事務所の内部、無数の織機が並ぶ様子は壮観



旧岡谷市役所の建物も保存されていて、産業遺産や歴史的建造物など観光資源はそこそこ点在しており、名物のウナギ取り扱い店マップもある。あとは、来訪者を楽しませる工夫が必要か。

今回、岡谷をご案内いただいたのは、岡谷の「神渡」の酒蔵豊島屋がご実家の林美貴さん。社長さんの取り計らいにより豊島屋資料館を拝観させていただいた。先代の趣味で収集したものが所狭しと並べられていた。豊島屋さんの事務所に入って、それぞれ「神渡」が買っている。



ガイドする林美貴氏。スケッチブックはいつものスタイル。



十五社神社



豊島屋資料館とその内部



■下諏訪タウン

下諏訪を訪れるのも二度目である。前回は全国路地サミット2006in 諏訪の時である。前回は、初回で観光を中心に回った記憶がある。今回は、今井世話人の案内で、路地を重点的に歩かせていただいた。今井さんのおばあさまは、アララギ派の歌人の今井邦子氏であり、この下諏訪出身で旧宅が今井邦子記念館として残されている。今井さんも幼少の時にその旧宅の階段で遊んだという。

しかし、今回の岡谷・下諏訪ツアーは本当に冷える。2022年で最も冷えた日である。最高気温が3度予想で雪もちらつくといっている。背中を丸めながら今井さんの後をついて行く。

まずはゲストハウスにリノベーションされた元旅館の赤煉瓦塀の路地である。その赤煉瓦塀は素晴らしいがそれ以外は空き地と万年塀と波形塀で、おいしい！



ゲストハウスにリノベーションされた旅館の赤煉瓦塀

次に向かったのは、菅野温泉（共同湯）を経由して御湖鶴酒造である。岡谷では豊島屋さんで「神渡」を買い、下諏訪でも「御湖鶴」を仕込もうという算段である。皆さん、冷えた体を温めるべく試飲に励んでらっしゃる。私も思ったが、試飲スペースが狭く順番は回ってきそうにない。



御湖鶴酒造



御湖鶴酒造向かいの手湯



手湯脇の飛び石路地

御湖鶴酒造の向かい側、蕎麦屋の脇の「四ツ角駐車場の手湯（巨過源泉）」の奥に飛び石風の石畳をたどっていくと、舗装はされているが、道路（通路？）と民地の境界がわからない路地になる。

その中ほどに、「飛やじ」と書かれた小さな袖看板が蔵造りの建物にかかっている。入り口は半地下になって階段を降りていく。なかなか、隠れ家的な感じで入ってみたいという衝動に駆られるが、昼の15時頃なので当然店は開いていない。ネットで検索すると、おばんざいを出す居酒屋のようである。次に機会があったら是非突撃しようと思う。

衣紋坂に出てちょっと魅力的な古道具・アンティークの店を横目に、案内人の今井さんは巨大な迷路を右に左にと寡黙に歩いていく。左に急勾配の幅半間程度の路地をやり過ごし、石畳の路地に出る。

そこでツアー参加者から、「木村さん大変だあ！ゴールデン街が火事だ！」とスマートフォンの情報を伝えてくれる。「えっ！どこどこ？」「う～ん、あれっ！これ！青春じゃん」、火事情報をくれた参加者の行きつけの店である。私も、この参加者に誘われて一度訪れたことがある。レコードが山積みになっている店だ。「え～～～、レコードがだめになっちゃうじゃん」店の心配よりレコードの心配をしてしまった。



飛やじの路地



石畳の路地



ちょっと気になる古道具屋



しかし、この路地、なぜ石畳なのか謎である。沿道は低いブロック塀がネットフェンスで、目立った施設もなく、駐車場が目立つ。その中に、朽ちかけている木造の門が孤立している。

そんなことを考えて歩いている内に、「中山道下諏訪宿 立町」と提灯が下げられたゲートに着く。ここからが宿場町の風情が色濃く残っているゾーンである。その傍らにちょっとした広場と蔵風の建物と黒板の建物が建っている。何かと覗いたら、子供たちが建物中で何やら会話中である。黒い建物に「八幡坂高札ひろば お休み処」と大書きされている。中山道下諏訪宿散策の休憩スペースであろう。そうこうしているうちに、ついに！と言うか、やっぱりと言うか、雪がちらつき始めた。冷え込みはいよいよ強くなってきた。

この立町には、手水風の温泉があちらこちらにもうけられている。立て札には「立町通り 源泉掛け流し 諏訪明神ご神湯 立町まちづくり協議会」と書かれている。しもすわ今昔館「おいでや」には、足湯が設置されている。いずれも無料である。その向かいには、明治の大火後に作られた商家が「宿場街道資料館」となって江戸時代の下諏訪宿の様子や皇女和宮降嫁、和田嶺合戦、赤報隊に関する資料が展示されている。そうそう、忘れてならないのはこの先 T 字路は五街道の中山道と甲州街道の交点で、甲州街道の終点である。また、中山道で温泉の出る宿場は下諏訪だけだそうである。



「中山道下諏訪宿 立町」ゲート



八幡坂高札ひろば お休み処



中央奥の時計塔のある建物が「おいでや」



突き当たり洋館風の建物



諏訪明神ご神湯



宿場街道資料館



雪も段々本気になってきたようだ。町家の格子に雪が風情を加えている。諏訪大社秋宮そばの新鶴本店で名物の塩羊羹を買う。土産を一つ買って一安心である。

下諏訪に来たのであるから、諏訪の神様にご挨拶に伺う、黒い鳥居が渋い。何年ぶりであろう。神楽殿や弊拝殿が雪でけぶっている。弊拝殿の檜皮葺きの屋根には雪がうっすら積もり始めており、普段見られない景色を見られた。御利益があったかな。



町屋格子に松に雪



新鶴本店



諏訪退社秋宮大鳥居



神楽殿



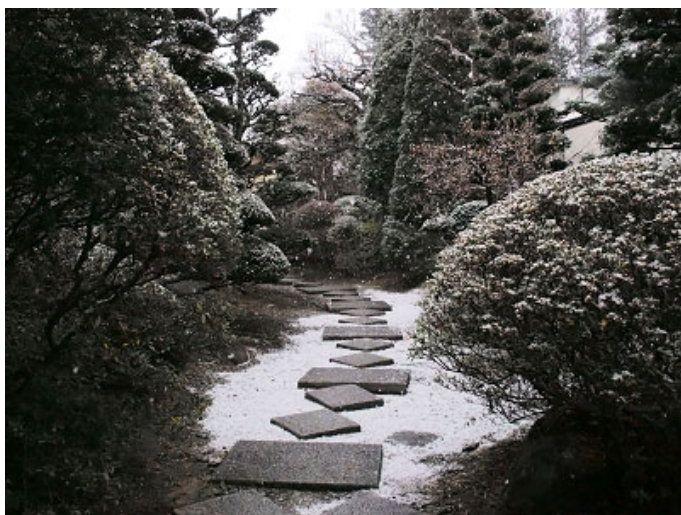
龍が吐く諏訪大社のご神湯



弊拝殿

参加者の三橋氏の取り計らいで休館中の旧本陣岩波家を拝観できることになった。三橋氏は、中小企業診断士などの活動で全国を股にかけて歩いているが、本当に全国に知り合いがたくさんいる。

薬医門を入ろうとしてはっとする。玄関へのアプローチの庭がよく手入れされており、飛び石が敷かれ、そこに雪がさらさらと降っている。門が額縁となり、一幅の水墨画のようである。



薬医門からのアプローチ

玄関を入り広間に通されて、さらにはっとする。広間は庭に向けて大きく開口部がとられ、回り縁にガラス戸が回されている。広間の角には隅柱があるが、回り縁の角には隅柱はなく、庭がダイナミックに広がっている。そして、その庭にしんと雪が静かに降り積もっている。雪は降り始めたばかりなので、庭木や灯籠などの姿を見られる絶妙なタイミングではないかと思う。もう少し降った後だと、雪ばかりになってしまってなんだかかわからないものになってしまうのではないか。



岩波家薬医門



広間から庭を見る

暖房のよく効いた広間で抹茶を供され、諏訪の冷氣ですっかり冷えた体をほぐしほつとする。岩波家ご当主の解説を聞く。一通りお話を聞いたところで、参加者の視線が庭に行っていることに気づいたご当主、「寒いですが、ガラス戸を開けましょうか」と、おっしゃっていただき、ガラス戸を全開に。庭の景色がさらにダイナミックに飛び込んでくる。このお庭は、公女和宮も見たという。諏訪明神の御利益がもっとあった！



岩波家当主のお話を聞く

さて路地協恒例の懇親会は、上諏訪まで出て、上諏訪駅前の「いずみ屋」である。参加者は、お酒と鍋で冷え切った体を温め、いつも通り飲んで、食べて、笑って、また飲むのであった。

「やっぱり飲みに来たんかい」と諏訪明神の声が聞こえそうである。



いずみ屋で懇親会



うっすら雪化粧の庭



公女和宮もご宿泊



下諏訪のマンホール蓋
やっぱり御柱